

□兼職会員インタビュー

今回インタビューする兼職会員：高野 隆明（たかの たかあき）氏

インタビュアー：辻林会員

原稿作成：辻林会員

取材日：平成26年9月22日（月）

取材現場：高野氏の会社近くの喫茶店

「高野 隆明 氏」の基本情報

奉務神社：神明宮（しんめいぐう）富山市任海鎮座

職業：リビック富山

ーインタビュー内容ー

Q、お仕事についてお聞かせ下さい。

高野：

リビック富山というガス会社で、ガスを使ってもらおうというのが主な仕事内容になります。また、ガス器具の販売、取り付けお客様の保安点検をしています

辻林：

たしか神社庁でも何か取り付けていらっしやいましたよね？

高野：

エアコンを入れさせていただきましたね。

ただ自分の前職が量販店で仕入れをしていたので、家電関係も分かります。今の会社は商社で、比較的取り寄せがきき、どのようなメーカーでも呼べるのでその繋がりですべていただきました。

Q、これまでの神青会活動についてお聞かせ下さい。

辻林：

私が初めて高野さんとお会いしたのは、寒中禊の時だったように思います。

それ以外ではどのような活動に参加されていますか？

高野：

残念ながらほとんど参加できていません。

神青会の皆様は、我々にあわせて7時ごろから会議を行って来ていますが、現場から会社に戻るのがその時間で、会社で更に事務処理を行うのもっと遅くに終わるような感じでした。ただ休みの日に参加できるものは、極力参加させていただいています。

禊に関しては、富山に来た最初の頃から参加させていただいています。年の初めでもあり

ますし。

それでもなかなか参加できないので、非常に心苦しい気持ちです。

Q、勤務についてお聞かせ下さい。

高野：

土日には宿日直というものがあまして、さらに平日にも泊まりがあたることもあります。ですから、月に6～8回程は泊まりがあります。

辻林：

いつでも臨機応変に対応できるようにですね。

高野：

先日も富山市から小矢部市まで走ったので、富山県内すべてが仕事場ですね。

Q、次に神社に関わることについてお聞かせ下さい。

辻林：

高野さんはもともと一般家庭でしたよね？社家に入った時の感想はどうでしたか？

高野：

カルチャーショックでしたね…。

まず、物の名前がわからない。会話がわからない、できない。当たり前だと思っていることが全く分からない。「三方」や「案」という言葉自体が分からず、「社家」という言葉も分からなかったです。まずそこが神社の家庭で生まれ育った人と一般の家庭で生まれ育った人との違いですね。そこを越えるのが物凄く大変でした。いや、今でも大変です。

Q、兼職をされていることについてお聞かせ下さい。

高野：

完全に神職で行くつもりでしたが、生活していくためには仕事をしなければならず、だんだんと仕事の方が重きになっていってしまいました。それでも何とか仕事より神職に重きを持って行きたいと思っていますが、そういうところが一番の悩みでもあります。

Q、プライベートなことで、ご自身の強みは何ですか？

高野：

ガス・電気関係のことなら、どこの神社でも言っていただけるとすぐにお伺いいたします！逆に私は神社の事が分からないので、助けてもらえるように皆さんと仲良くしたいのですが、仕事でなかなかいけないので…本当は忘年会などにも参加したいのですが、申し訳ないです。

Q、最後に、今後神社で行っていきたいことはありますか？

高野：

神社が出来た経緯を再度理解し、氏子さんにちゃんと話せるようにしていきたいです。それをしながら、参拝者が何か悩んでいるかもしれないですし、営業をやっている話し方で、少しでも神社に来ていただき、相談に乗ってもらえるような神社にしていきたいです。現在無くなってしまった多くの物をひとつでもふたつでも復活できたらなと思っています。その復活が一番大事だと思っていますし、私がここに来た意味があるのかなと思います。50代や60代になっても良いので、今すぐは辛いかもしれませんが、復活させたいと考えています。

高野・辻林：

本日は有難うございました。

完